
ZENworks® 11 サポートパック 4

新機能リファレンス

2016年5月

保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.novell.com/company/legal/> を参照してください。

Copyright © 2016 Novell, Inc. All Rights Reserved.

目次

このガイドについて	5
1 11 SP4 の新機能	7
1.1 システム要件	7
1.1.1 プライマリサーバと管理対象デバイスのサポート	7
1.1.2 ブラウザのサポート	8
1.2 ZENworks アプライアンス	8
1.3 ZENworks Reporting	9
1.4 Asset Management	9
1.5 Configuration Management	10
1.5.1 更新設定	10
1.5.2 共有コンテンツリポジトリ	10
1.5.3 SSL 管理	11
1.5.4 Windows 向けの ZENworks Updater Service (ZeUS)	11
1.5.5 リモート管理	11
1.5.6 SUSE サブスクリプション	12
1.5.7 その他の機能	12
1.6 Endpoint Security Management	12
1.7 Full Disk Encryption	13
1.8 バッチ管理	13
2 11.4.1 の新機能	17
2.1 システム要件	17
2.1.1 プライマリサーバのサポート	17
2.1.2 管理対象デバイスのサポート	17
2.1.3 ブラウザのサポート	17
2.2 Configuration Management	18
2.2.1 MDT Deployment バンドル	18
2.2.2 Telemetry	18
2.2.3 ZENworks ソース	18
2.3 保証と著作権	18
3 11.4.2 の新機能	21
3.1 システム要件	21
3.1.1 Tomcat 7.0.61 は Tomcat 7.0.68 に更新されています	21
3.1.2 新しいプラットフォームのサポート	21
3.1.3 新しい管理ブラウザのサポート	22
3.2 バッチ管理の改善	22
3.2.1 パフォーマンスの改善	22
3.2.2 SLES 12 のサポート	22
3.2.3 パッチポリシーの通知およびキャンセルオプション	23
3.2.4 キャッシュされたパッチバンドルのクリーンアップ	23
3.2.5 新しいパッチのレポート	23
3.3 SHA-2 コード署名証明書で署名された非ドライバファイル	23
3.4 保証と著作権	24

このガイドについて

この ZENworks 新機能リファレンスでは、ZENworks リリースの新機能について説明します。このガイドは、次の章で構成されています。

- ◆ 7 ページの第 1 章「11 SP4 の新機能」
- ◆ 17 ページの第 2 章「11.4.1 の新機能」
- ◆ 21 ページの第 3 章「11.4.2 の新機能」

対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインヘルプの各ページの下部にある、このトピックに関するコメント機能を使用してください。

その他のマニュアル

ZENworks には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、ZENworks 11 SP4 マニュアル Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zenworks114>) を参照してください。

1 11 SP4 の新機能

次の各セクションでは、Novell ZENworks 11 Support Pack 4 の新機能と拡張機能を説明します。

- ◆ 7 ページのセクション 1.1 「システム要件」
- ◆ 8 ページのセクション 1.2 「ZENworks アプライアンス」
- ◆ 9 ページのセクション 1.3 「ZENworks Reporting」
- ◆ 9 ページのセクション 1.4 「Asset Management」
- ◆ 10 ページのセクション 1.5 「Configuration Management」
- ◆ 12 ページのセクション 1.6 「Endpoint Security Management」
- ◆ 13 ページのセクション 1.7 「Full Disk Encryption」
- ◆ 13 ページのセクション 1.8 「パッチ管理」

1.1 システム要件

- ◆ 7 ページのセクション 1.1.1 「プライマリサーバと管理対象デバイスのサポート」
- ◆ 8 ページのセクション 1.1.2 「ブラウザのサポート」

1.1.1 プライマリサーバと管理対象デバイスのサポート

ZENworks 11 SP4 では、次のプラットフォームがサポート対象になりました。

- ◆ 7 ページの 「プライマリサーバのサポート」
- ◆ 7 ページの 「管理対象デバイスのサポート」

プライマリサーバのサポート

- ◆ Red Hat Enterprise Linux 5.10、5.11、6.6 (x86_64)
- ◆ SLES 12 x86_64

管理対象デバイスのサポート

- ◆ Red Hat Enterprise Linux 5.10、5.11、6.6 (x86_64)
- ◆ SLES 12 x86_64
- ◆ Mac OS X 10.10.x (x86 および x86_64)

詳細については、「[ZENworks 11 SP4 System Requirements](#)」を参照してください。

1.1.2 ブラウザのサポート

次のブラウザバージョンがサポートされるようになりました。

- ◆ Internet Explorer 10.0 および 11.0

すべてのサポート対象のブラウザについては、『ZENworks 11 SP4 System Requirements』の「[管理ブラウザ要件](#)」を参照してください。

1.2 ZENworks アプライアンス

ZENworks 11 SP4 アプライアンスは、基盤になるアプライアンスプラットフォームの管理、監視、バッチ適用およびアップグレードを簡単にすることを目的とした新しいアプライアンスアーキテクチャに基づいています。ZENworks アプライアンスは展開や保守が簡単なだけでなく、非常にスケーラブルな ZENworks ソリューションを提供します。

Appliance の主な機能は次のとおりです。

- ◆ **複数のハイパーバイザのサポート** : VMware ESXi/vSphere、Hyper-V、および Citrix XenServer をサポートしています。
- ◆ **シンプルなセットアップエクスペリエンス** : ZENworks を設定するための Web ベースの機能が実装されたことにより、外部証明書の証明書署名要求の作成や、証明書応答のインポートが容易になりました。
- ◆ **シンプルな管理エクスペリエンス** : 次のような簡単な管理エクスペリエンスを提供します。
 - ◆ **Web ベースツールのスイート** : サーバ設定と Ganglia モニタリング、ネットワーク設定、ファイアウォール、環境設定ファイル、ログ設定とログファイル、アプライアンスにアップロードされたファイルやアプライアンスからダウンロードされたファイル、および ZENworks コマンドを実行するターミナルセッションにアクセスするための Web ベースのツールスイートです。
 - ◆ **アプライアンスの更新フレームワーク** : チャンネルベースの更新をサポートしています。更新チャンネルを利用できるエンタイトルメントに基づいて、ZENworks アプライアンスの Web コンソールから更新を適用できます。
 - ◆ **システム更新** : ZENworks プラットフォームの定期更新用のシステム更新。
- ◆ **シンプルな移行操作** : 次のものを提供しています。
 - ◆ ZENworks 11 SP3 アプライアンスから ZENworks 11 SP4 アプライアンスに移行するためのマイグレーションユーティリティ。
 - ◆ 新しいシンプルなアプライアンス移行プロセス。
 - ◆ 移行にかかる時間と労力の大幅な削減。

詳細については、『ZENworks Appliance 11 SP4 展開および管理リファレンス』を参照してください。

1.3 ZENworks Reporting

ZENworks 11 SP4 に付属する ZENworks Reporting Server は、仮想アプライアンス専用として提供されています。次のような機能を備えています。

- ◆ アプライアンスのフォームファクタ
 - ◆ SUSE ベースの仮想アプライアンスとして提供
 - ◆ 更新と保守が容易
- ◆ 簡素化された環境設定
 - ◆ Web ベースの環境設定
 - ◆ ローカル管理者アカウントのサポート
 - ◆ 検索機能の向上による管理者グループの設定
- ◆ コンソールのユーザビリティの向上
 - ◆ アドホックフィルタ用のデータなしモード
 - ◆ 送信時にフィルタが変更された場合にのみデータをリフレッシュ
 - ◆ より優れた性能と予測入力を可能にする、便利な入力コントロール
 - ◆ 定期レポートを FTP サーバまたはホストファイルシステムに保存
- ◆ 新規導入または強化されたチャート
 - ◆ チャート形式とエクスポートのオプションの向上
 - ◆ さまざまなチャート - 時系列グラフ、二重軸グラフ、多重軸グラフ、散布図、バブル図、クモの巣グラフ、二重円グラフ
- ◆ アドホックビューの向上
 - ◆ 複数のフィールドおよび関数の使用による、集計フィールドの作成
 - ◆ 事前作成された関数の拡張リスト
 - ◆ 日付集計オプション - 既存のフォーマット (年、四半期、月、および日) に分、秒を追加
- ◆ アドホックレポートの向上
 - ◆ Jaspersoft Studio でレポートのテンプレートを作成し、このテンプレートを使用してアドホックビューから作成したレポートの外観を決定
 - ◆ レポートの拡大、およびレポート内のコンテンツの検索

詳細については、『[ZENworks Reporting システムリファレンス](#)』を参照してください。

1.4 Asset Management

- ◆ **ライセンス情報ソース (LIS):** Open Enterprise Server や GroupWise などの Novell 製品のライセンス準拠を追跡するための新しい Asset Management ワークフローが作成されました。ZENworks コントロールセンターの [License Information Sources (ライセンス情報ソース)] パネルを使用すると、これらの Novell 製品について新しい設定を追加したり、既存の設定を編集または削除できます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Asset Management リファレンス](#)』の「[ライセンスコンプライアンス](#)」を参照してください。

- ◆ **ZAV アプリケーションの使用状況のインベントリ** : ZENworks インベントリで、ZENworks Application Virtualization アプリケーションの使用状況をインベントリできるようになりました。
- ◆ **Linux 管理対象エージェントとして使用されるハードウェアコレクタおよびソフトウェアコレクタ** : Linux IOA およびポータブルコレクタは、Linux 管理対象エージェントと同じハードウェアコレクタおよびソフトウェアコレクタを使用します。
詳細については、『ZENworks 11 SP4 Asset Inventory Reference』を参照してください。
- ◆ **AM ゾーン権限** : この新しい権限を使用して、ライセンス情報ソースを作成および削除できます。
- ◆ **LDAP インポートタスクの監査オプション** : LDAP インポートタスクに関連するイベントを監査するための新しい監査オプションが導入されました。
詳細については、『ZENworks 11 SP4 Audit Management Reference』の「Change Event Categories」を参照してください。

1.5 Configuration Management

- ◆ 10 ページのセクション 1.5.1 「更新設定」
- ◆ 10 ページのセクション 1.5.2 「共有コンテンツリポジトリ」
- ◆ 11 ページのセクション 1.5.3 「SSL 管理」
- ◆ 11 ページのセクション 1.5.4 「Windows 向けの ZENworks Updater Service (ZeUS)」
- ◆ 11 ページのセクション 1.5.5 「リモート管理」
- ◆ 12 ページのセクション 1.5.6 「SUSE サブスクリプション」
- ◆ 12 ページのセクション 1.5.7 「その他の機能」

1.5.1 更新設定

更新設定が登録キーと登録ルールに追加され、VDI 非永続デスクトップがサポートされるようになりました。この設定は、ゾーンレベル更新設定よりも優先されます。

詳細については、『ZENworks 11 SP4 検出、展開、およびリタイアリファレンス』を参照してください。

1.5.2 共有コンテンツリポジトリ

ZENworks 11 SP4 に導入された共有コンテンツリポジトリ機能を使用すると、複数のプライマリサーバ間でコンテンツリポジトリを共有できます。ZENworks の以前のリリースでは、すべてのプライマリサーバに固有のコンテンツリポジトリがありました。

詳細については、『ZENworks 11 SP4 プライマリサーバおよびサテライトリファレンス』の「Content Sharing」を参照してください。

1.5.3 SSL 管理

新しい ZENworks SSL 管理機能を使用すると、ZENworks コントロールセンターから ZENworks 認証局 (CA) を管理できます。シンプルなユーザインタフェースにより、次のことが簡単にできます。

- ◆ 内部 ZENworks CA の再作成
- ◆ 1 つの CA から別の CA への変更 (内部から外部、外部から内部、または外部間)
- ◆ 外部 CA 証明書の更新
- ◆ プライマリサテライトサーバおよび認証サテライトサーバの証明書の管理
- ◆ 内部 ZENworks CA のバックアップまたは復元
- ◆ 別のプライマリサーバへの CA 役割の移動
- ◆ 証明書の有効期限に関する通知の受信

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 SSL Management Reference](#)』を参照してください。

1.5.4 Windows 向けの ZENworks Updater Service (ZeUS)

ZENworks 11 SP4 では、ZENworks Adaptive Agent が実行中であるかどうかにかかわらず、ZENworks Updater Service (ZeUS) として知られる新しいサービスが Windows エージェントデバイスで実行されます。ZeUS は、より堅牢なアップグレード機能と修復機能を実現するとともに、組み込みの自動回復メカニズムも提供しています。また、エージェントアップグレード用の管理対象デバイスにアクセスするための、ZENworks サーバの制御と柔軟性を向上させます。

ZENworks の管理者は、エージェント更新の承認とスケジュール、エージェントキャッシュの削除とエージェントサービスの再起動によるエージェントのリセット、最新の正常なエージェント更新の再インストール、ZeUS を使用したエージェント更新アクティビティのアクティブなモニタリングを実行できます。エンドユーザは、Windows のシステムトレイからエージェント更新をスヌーズおよび再開できます。

ZENworks Updater Service には、固有のインストーラと自己更新機能が備わっています。すべての ZeUS のアクティビティは、固有のログファイル (zeus-messages.log) に記録されます。このログファイルには、%ZENWORKS_HOME%\ZeUS\logs ディレクトリからアクセスできます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 System Updates Reference](#)』を参照してください。

1.5.5 リモート管理

- ◆ ZENworks 11 SP4 には、TightVNC 2.7 に準拠したリモート管理サービスが更新されて組み込まれており、ZENworks 固有の拡張機能を維持しながら、ZENworks リモート制御の信頼性とパフォーマンスの向上を実現しています。
- ◆ ZENworks 11 SP4 では、リモート管理操作は、ZENworks Agent Service が無効になっている場合でも中断されることなく実行できます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 リモート管理リファレンス](#)』を参照してください。

1.5.6 SUSE サブスクリプション

ZENworks サブスクリプションでは、SUSE カスタマセンターからパッケージを複製して ZENworks システムにバンドルを作成するために、SUSE サブスクリプションタイプが追加されました。

注 : SUSE Linux Enterprise 12 の更新は、SUSE カスタマセンターからのみ入手できます。SUSE サブスクリプションを使用して、これらの更新を複製する必要があります。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Linux Package Management Reference](#)』の「[Subscriptions](#)」を参照してください。

1.5.7 その他の機能

- ◆ **エクスポートサーバおよび csv ファイル形式のワークステーションデータ** : ZENworks コントロールセンター (**Devices (デバイス)** タブにある) に、データを csv ファイル形式でエクスポートできるようにする新しいタスクがサーバとワークステーション用に追加されました。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 ZENworks コントロールセンターリファレンス](#)』の「[Folders](#)」を参照してください。

- ◆ **管理者の検索および検索結果の消去** : 管理者のパネルに、2つの新しいオプションが追加されました。**Search (検索)** オプションを使用すると、適切な文字列を使用して管理者の詳細をフィルタできます。**Search (検索)** オプションの横にある **x** マークを使用すると、管理者検索フィルタを使用した検索結果を消去できます。

1.6 Endpoint Security Management

- ◆ **データ暗号化ポリシー** : 特定のリムーバブルストレージデバイスを暗号化から除外する機能が追加されました。詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Endpoint Security Policies Reference](#)』の「[Data Encryption Policy](#)」を参照してください。
- ◆ **VPN 実施ポリシー** : 特定のネットワークアドレスに向かう ping または連続するパケットストリームを監視することにより、インターネットアクセスや VPN 接続を検出する機能が追加されました。詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Endpoint Security Policies Reference](#)』の「[VPN Enforcement Policy](#)」を参照してください。
- ◆ **USB 接続ポリシー** : [Always Enable (常に有効にする)] および [Always Disable (常に無効にする)] オプションをなくすことにより、USB デバイスのアクセス設定が簡素化されました。個々のデバイスに割り当てられたアクセス設定で、デバイスグループのアクセス設定が上書きされます。さらに、アクセス設定が上から下へと適用されるように、デバイスリストが整列されます。詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Endpoint Security Policies Reference](#)』の「[USB Connectivity Policy](#)」を参照してください。
- ◆ **ネットワークアダプタ** : ネットワークアダプタの定義を作成し、特定のアダプタタイプ (無線、有線、ダイヤルアップ/携帯、または仮想) を割り当てる機能が追加されました。さまざまな機能 (場所、通信ハードウェアポリシー、および VPN 実施ポリシー) を使用するには、ZENworks で管理対象デバイス上のネットワークアダプタを検出する必要があります。場合によっては、検出されたネットワークアダプタがアダプタタイプに関する誤った情報を提供することがあります。デバイスの場所を特定する場合や、通信ハードウェアポリシーおよび

VPN 実施ポリシーを適用する場合、これにより、意図した動作に悪影響が及ぶ可能性があります。ネットワークアダプタを定義し、それにタイプを割り当てることにより、場所やポリシーに関する期待どおりの動作を確保できます。

- ◆ **デバイスのインポート**：データ暗号化ポリシー、ストレージデバイス管理ポリシー、および USB 接続ポリシーには、デバイススキャナファイルからデバイスをインポートすることにより追加できる、リムーバブルストレージデバイスのリストがそれぞれ用意されています。これらの各ポリシーのインポート機能は、推奨データフィールドと高度なデータフィールドを比較して、どのデータフィールドをインポートするのかを制御できるようにすることを目的として強化されました。詳細については、『ZENworks 11 SP4 Endpoint Security Policies Reference』の「[Data Encryption Policy](#)」、「[Storage Device Control Policy](#)」、および「[USB Connectivity Policy](#)」を参照してください。

1.7 Full Disk Encryption

- ◆ **自己暗号化ドライブのサポートの強化**：以前は、OPAL 準拠の自己暗号化ドライブに対するサポートは、特定のリストに記載された承認済みのドライブに制限されていました。この制限は、以前と同様に今でも存在しています。ドライブロックに関する OPAL 仕様の実装方法がドライブの製造元によって異なるためです。ZENworks Full Disk Encryption でドライブロックを使用する場合は、承認リストにあるドライブのいずれかを使用するか（『ZENworks 11 SP4 Full Disk Encryption Self-Encrypting Drive Support』を参照）、機能する自己テスト済みドライブを使用する（『ZENworks 11 SP4 Full Disk Encryption Self-Encrypting Drive Compatibility Testing』を参照）必要があります。

今回のリリースでは、ZENworks Full Disk Encryption で OPAL 2.0 準拠の自己暗号化ドライブ（ドライブロック非互換）もサポートされるようになりました。この実現には、ソフトウェアベースの暗号化によるプレブート認証が使用されています。このモードでは、ZENworks PBA でドライブロックが実装されなくなり、該当ドライブは常に（ハードウェア暗号化され）ロック解除された状態になります。ドライブのロック解除状態を補うため、ZENworks の完全ディスク暗号化により、ソフトウェア暗号化がドライブに適用され、暗号化の第 2 層がドライブのネイティブなハードウェア暗号化に追加されます。

詳細については、『ZENworks 11 SP4 Full Disk Encryption Deployment on Self-Encrypting Drives』を参照してください。

1.8 パッチ管理

- ◆ **クローズドネットワークを利用するユーザ用のエアギャップ**：インターネットに公開できない機密データを操作するユーザは、エアギャップ機能を利用できるようになりました。この機能を使用すると、ZENworks Patch Management を、インターネットから切断されているネットワーク上にあるワークステーション、つまり「エアギャップ」環境で使用できます。この環境設定では、パッチコンテンツをインターネットにダウンロードするために 1 台のパッチ管理サーバが設定されています。コンテンツをダウンロードした後は、インターネットから切断されている別のパッチ管理サーバにそのコンテンツが移行されます。このサーバを使用して、エアギャップされたワークステーションにパッチ適用し、標準に準拠させます。
- ◆ **パッチサーバのマイグレーション**：パッチ管理サーバに障害が発生した場合や保守中である場合は、以前のパッチ管理のインストールからのデータを保持しながら、パッチ管理を別の ZENworks サーバに移行することができるようになりました。移行時には、キャッシュ済みパッチコンテンツ、強制的なベースライン、および DAU バンドルを保持できるようになりました。

- ◆ **パッチ管理設定の再編成**：[管理ゾーンの設定] のパッチ管理の環境設定が、さまざまなページに再編成されました。新しいレイアウトはより直観的になっています。ただし、経験豊富なパッチ管理ユーザは、一部の設定が以前あったページから移動したことに気付くかもしれません。
- ◆ **パッチ管理の管理ゾーンの設定**：パッチ管理の管理ゾーンの設定数が 12 カテゴリから 7 カテゴリへと削減されました。これらのカテゴリの一部が、より直観的なユーザエクスペリエンスを実現するために統合されたためです。

環境設定	登録	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新	場所	管理者	証明書
管理ゾーンの設定							
コンテンツ							
デバイス管理							
ディスクバリと展開							
イベントとメッセージング							
インフラ管理							
インベントリ							
アセット管理							
エンドポイントセキュリティ管理							
サービスデスク管理							
モバイル管理							
監査管理							
パッチ管理							
カテゴリ	説明						
サブスクリプションサービス設定	任意のHTTPプロキシとサードパーティのサブスクリプション設定が指定されたZPMサーバ						
サブスクリプションサービスコンテンツのダウンロード	パッチサブスクリプションコンテンツのダウンロード設定						
電子メール通知	新しいパッチの検出時に配信される電子メール通知						
ダッシュボードおよびトレンド	パッチダッシュボードとトレンド動作の設定						
脆弱性検出スケジュール	脆弱性データと検出スケジュールの更新						
パッチポリシー設定	パッチポリシーの配布と実行						
強制的なベースライン設定	強制的なベースラインインストールの動作方法に関するグローバル値の設定						

次の表には、新しい ZENworks 11 SP4 のカテゴリが、ZENworks 11 SP3 のカテゴリと比較して記載されています。

表 1-1 パッチ管理カテゴリの再編成

ZENworks 11 SP4 のカテゴリ	ZENworks 11 SP3 のカテゴリ
サブスクリプションサービス設定	<ul style="list-style-type: none"> ◆ サブスクリプションサービス情報 ◆ HTTP プロキシの設定 ◆ パッチサブスクリプション資格情報
サブスクリプションサービスコンテンツのダウンロード	サブスクリプションのダウンロード
電子メール通知 (変更なし)	
ダッシュボードおよびトレンド (変更なし)	
脆弱性検出スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Discover Applicable Update バンドルのインストールのスケジュール ◆ Discover Applicable Update バンドルの配布のスケジュール ◆ 展開オプション
パッチポリシー設定	<ul style="list-style-type: none"> ◆ パッチポリシー実施の設定 ◆ パッチポリシー配布の設定
強制的なベースライン設定 (変更なし)	

- ◆ **期間によるコンテンツの無効化**：この新しいオプションは、古いコンテンツを管理するために追加されました。これにより、選択した有効期限よりも古いコンテンツを自動的に無効化できるようになります。この機能を使用すると、古いパッチの展開を防止したり、[Patches (パッチ)] タブに表示されるパッチリストの範囲を縮小できます。たとえば、サードパーティ製のインストーラが6カ月後に自動的に無効になるよう設定できます。

期間別に古いパッチを無効化

	OSベンダー	サードパーティベンダー
重大	8年 ▼	3年 ▼
推奨	2年 ▼	2年 ▼
ソフトウェアインストーラ	1年 ▼	6カ月 ▼

パッチ管理シナリオの詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Update 2 Patch Management リファレンス](#)』を参照してください。

2 11.4.1 の新機能

次の各セクションでは、Novell ZENworks 11.4.1 の新機能と拡張機能を説明します。

- ◆ [17 ページのセクション 2.1 「システム要件」](#)
- ◆ [18 ページのセクション 2.2 「Configuration Management」](#)
- ◆ [18 ページのセクション 2.3 「保証と著作権」](#)

2.1 システム要件

- ◆ [17 ページのセクション 2.1.1 「プライマリサーバのサポート」](#)
- ◆ [17 ページのセクション 2.1.2 「管理対象デバイスのサポート」](#)
- ◆ [17 ページのセクション 2.1.3 「ブラウザのサポート」](#)

2.1.1 プライマリサーバのサポート

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 システム要件](#)』を参照してください。

2.1.2 管理対象デバイスのサポート

- ◆ Windows 10 x86、x86_64 (Professional、Education、Enterprise、および Enterprise LTSC の各エディション)
- ◆ SLES 10 SP3 および SP4 x86、x86_64
- ◆ Macintosh 10.11.x (EL Capitan)

システム要件の詳細については、『[ZENworks 11 SP4 システム要件](#)』を参照してください。

2.1.3 ブラウザのサポート

ZENworks 11.4.1 では、次の Web ブラウザがサポートされています。

- ◆ Firefox ESR バージョン 38.3
- ◆ Firefox バージョン 40.x および 41.x

すべてのサポート対象のブラウザについては、『[ZENworks 11 SP4 System Requirements](#)』の「[管理ブラウザ要件](#)」を参照してください。

2.2 Configuration Management

- ◆ [18 ページのセクション 2.2.1 「MDT Deployment バンドル」](#)
- ◆ [18 ページのセクション 2.2.2 「Telemetry」](#)
- ◆ [18 ページのセクション 2.2.3 「ZENworks ソース」](#)

2.2.1 MDT Deployment バンドル

ZENworks 11.4.1 は、MDT (Microsoft Deployment Toolkit) を使用した Windows オペレーティングシステムの展開をサポートします。サポートされるバージョンは、MDT (Microsoft Deployment Toolkit) 2013 Update 1 です。MDT Deployment プレブートバンドルカテゴリを使用して、MDT WIM ファイルを目的の ZENworks プライマリサーバおよびイメージングサテライトサーバにアップロードおよび複製できます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Preboot Service およびイメージングリファレンス](#)』を参照してください。

2.2.2 Telemetry

テレメトリは、Novell が ZENworks の使用状況に関する統計データを収集できるようにします。このデータを利用することで、Novell はお客様が ZENworks で最適な体験を得られるようにすることができます。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Management Zone Settings Reference](#)』を参照してください。

2.2.3 ZENworks ソース

新しい ZENworks ソースにより、Novell ZENworks ソフトウェアのライセンス準拠の状態を追跡できます。このためには、ZENworks ドメインのソースを理解して、LIS (ライセンス情報ソース) を設定する必要があります。

詳細については、『[ZENworks 11 SP4 Asset Management リファレンス](#)』を参照してください。

2.3 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出

除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。

Novell ソフトウェアの輸出の詳細については、[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) の Web ページをご参照ください。Novell は、お客様が必要な輸出承認を取得しないことについては、いかなる責任も負わないものとします。

Copyright © 2015 Novell, Inc. All rights reserved. 本書のいかなる部分も、出版社の書面による許可なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、転送を行ってはなりません。

Novell の商標については、「[商標とサービスマークの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に属します。

3 11.4.2 の新機能

次の各セクションでは、ZENworks 11.4.2 で新たにサポートされたプラットフォームと拡張機能を説明します。

- ◆ 21 ページのセクション 3.1 「システム要件」
- ◆ 22 ページのセクション 3.2 「パッチ管理の改善」
- ◆ 23 ページのセクション 3.3 「SHA-2 コード署名証明書で署名された非ドライバファイル」
- ◆ 24 ページのセクション 3.4 「保証と著作権」

3.1 システム要件

- ◆ 21 ページのセクション 3.1.1 「Tomcat 7.0.61 は Tomcat 7.0.68 に更新されています」
- ◆ 21 ページのセクション 3.1.2 「新しいプラットフォームのサポート」
- ◆ 22 ページのセクション 3.1.3 「新しい管理ブラウザのサポート」

3.1.1 Tomcat 7.0.61 は Tomcat 7.0.68 に更新されています

ZENworks 11.4.2 では Apache Tomcat version 7.0.61 がバージョン 7.0.68 に更新されており、次のセキュリティの脆弱性に対応しています。

- ◆ CVE-2015-5174 Apache Tomcat の制限されたディレクトリトラバーサル
- ◆ CVE-2016-0706 Apache Tomcat のセキュリティマネージャバイパス
- ◆ CVE-2016-0714 Apache Tomcat のセキュリティマネージャバイパス
- ◆ CVE-2015-5346 Apache Tomcat のセッション固定化
- ◆ CVE-2015-5351 Apache Tomcat の CSRF トークンリーク
- ◆ CVE-2016-0763 Apache Tomcat のセキュリティマネージャバイパス

3.1.2 新しいプラットフォームのサポート

ZENworks 11.4.2 では、次のプラットフォームがサポートされています。

- ◆ SLES 12 SP1 x86_64
- ◆ SLED 12 SP1 x86_64 (管理対象デバイスおよびサテライトサーバのみに適用可能)
- ◆ Open Enterprise Server 2015 x86_64 (管理対象デバイスおよびサテライトサーバのみに適用可能)

システム要件の詳細については、『ZENworks 11 SP4 システム要件』を参照してください。

重要

- ◆ SLES 12 オペレーティングシステムは、イメージング操作 (取得と復元) をサポートしません。また、ZENworks Patch Management は SLES 12 SP1 x86_64 ではサポートされません。
-

3.1.3 新しい管理ブラウザのサポート

ZENworks 11.4.2 では、次の Web ブラウザがサポートされています。

- ◆ Firefox ESR バージョン 38.x および 45.x
- ◆ Firefox バージョン 44.x および 45.x

3.2 パッチ管理の改善

ZENworks 11.4.2 のパッチ管理では性能の高速化が図られており、3つの新しい機能 (SLES 12 パッチサポート、パッチポリシーの通知およびキャンセルオプション) と、古いパッチバンドルをクリーンアップするための設定オプションが追加されています。

3.2.1 パフォーマンスの改善

パフォーマンスの改善には、応答の事前計算によるサーバ性能の高速化や、脆弱性検出の強化によるクライアント性能の高速化が含まれます。

応答の事前計算

特定のパッチポリシー内のパッチの数が、かなりの量に増えると、すべての管理対象デバイスからのオンデマンドのパッチポリシー計算要求に応える必要が出てくるため、ZENworks サーバへの負荷が高くなります。これは結果的に、ZENworks サーバと管理対象デバイス間の応答時間の増大につながります。

これらの問題に対処するために、パッチポリシーが事前計算されるようになりました。これにより、オンデマンドの計算要求の必要性がなくなります。これらの事前計算された応答は圧縮され、データベースに保存されます。これにより、ZENworks サーバから管理対象デバイスに転送されるデータのサイズが削減され、その結果、管理対象デバイスにパッチを適用する ZENworks サーバの機能が向上します。

この機能の恩恵を得るには、管理対象デバイスにもこの更新を適用する必要があります。

脆弱性検出の強化

見えないところでパッチ検出の速度を向上させる機能が強化されたことにより、パッチ検出がより速く完了するようになりました。

3.2.2 SLES 12 のサポート

このリリースでは、SUSE Linux Enterprise Server 12 用のパッチサポートが追加されています。これらのエンドポイントにパッチを適用するには、YaST を使用してエンドポイントを登録し、SUSE カスタマーセンターに登録してから、カスタマーセンターの資格情報をサブスクリプションサービス設定に追加します。

3.2.3 パッチポリシーの通知およびキャンセルオプション

パッチポリシーの展開を設定する際、新しいパッチポリシーがワークステーションに適用されていることをユーザに通知するように、展開を設定できるようになりました。さらに、ユーザがポリシーの適用をキャンセルできるように、パッチポリシーを設定することもできます。

3.2.4 キャッシュされたパッチバンドルのクリーンアップ

ZENworks のパッチ管理に、以前の展開に対する古いパッチを自動的に削除するオプションが備わりました。この機能を使用すると、キャッシュされたパッチによって、サーバ上で過度のディスクスペースが消費されないようにすることができます。

3.2.5 新しいパッチのレポート

ZENworks 11 SP4 update 2 ではパッチ管理用の 5 つの新しいレポートが利用可能です。

- ◆ **DAU ステータス** : 管理ゾーン内のエージェントで **Discover Applicable Updates (DAU)** タスクが実行されて以降の日数を示す円グラフが含まれます (7 日を超えるものおよび 1-3 日のもの)。
- ◆ **デバイスステータス** : 次のステータスインジケータについてデバイス名別に日時スタンプを示します : 前回の連絡日、前回の完全更新、前回のインベントリスキャン、および前回の DAU。
- ◆ **全体的なパッチの割合** : デバイスの総数(パッチが適用されたものと適用されていないもの)およびそれらの個別の割合を一覧表示します。この割合は円グラフにも反映されます。
- ◆ **フォルダ別のパッチの割合** : 各フォルダ内のパッチが適用されたデバイスと適用されていないデバイスの数、およびパッチが適用されていないデバイスの割合を表示します。
- ◆ **デバイス別の未適用のパッチ** : 管理ゾーン内の各デバイスに対する表を示します。この表には、未適用のパッチが、パッチ名、リリース日、影響、バンダーを含めて表示されます。

注 : ZENworks 11.4.2 を更新またはインストールした後、新しいレポートにアクセスできるように ZENworks Reporting Appliance を設定する必要があります。『[ZENworks Reporting Appliance 5.6.1 展開および管理リファレンス](#)』の「[Reconfiguring ZENworks Reporting](#)」を参照してください。

3.3 SHA-2 コード署名証明書で署名された非ドライブファイル

私達は、SHA-1 コード署名証明書を使用してファイルを署名してきました。しかし、2016 年 1 月 1 日以後、Windows 7 以降のバージョンでは、SHA-1 コード署名証明書で署名された非ドライブファイルおよび 2016 年 1 月 1 日より後の日付でスタンプされた時刻が信頼されなくなりました。このことを考慮に入れて、私達はこのリリースで非ドライブファイルの署名に SHA-2 コード署名証明書を使用するようになりました。

3.4 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.novell.com/company/legal/> を参照してください。

Copyright © 2016 Novell, Inc. All Rights Reserved.